

7 月度 <b>例会</b> <b>個人</b> 山行 報告書		報告者	森	参加 メンバー	CL 岸上 西川、森下、森 (以上4名)
		報告日	23.7.13		
山名	ダイヤモンドトレール	山行日	7/8土、9日		
山行目的	中止となった例会の代替、親睦		コースタイム (天候: 天気図記号)		

配布先  
集会:12  
山行:1  
リーダ-  
原紙:  
集会担当者



7/8土 曇時々雨	7/9日 雨のち曇
0400 早朝車移動 西川号(西川・森下) 岸上号(岸上・森)	0400 起床
0700 岸上 施福寺発	0500 歩行開始 0530 金剛山山頂 ※ 葛城神社
0800 出発	0710 水越峠 ※
0900 紀見峠 ※	0815 ※
0920 山の神	0850 葛城山山頂
1018 西の行者堂	0900 休憩所 ※
1035 タンボ山 ※	1010 ※
1122 行者杉 ※	1055 岩橋山前コル ※
1152 神福山	1112 岩橋山
1220 千早峠 ※	1155 平石峠 ※
1315 高谷山	1237 竹内山 ※
1340 中葛城山	1257 竹内峠 ※
1348 久留野峠 ※	1340 岩谷峠 ※
1500 金剛山 ⇒ちはや園地キャンプ場 バンガロー泊	1500 登山口着 岸上・森下は 屯鶴峯(どんづるぼう)まで

**〈山行報告〉**  
7月度例会「北ア 七倉岳・船窪岳」は悪天候により金曜朝に中止を決定、CL岸上さん・西川さんの提案でダイヤモンドトレールへの有志山行に切替となり、当初の6名から岸上・西川・森下・森の4名となった。最新予報では大阪方面は雨雲が少なめとのことらしい。当日2台に分乗して現地入りし、ゴールに駐車して全員でスタート地点へ移動。道中、フル45kmに挑戦するか否か相談したが、フルは無理ではとの西川さんの冷静な意見から、岸上さんだけフル、残り3名は紀見峠からの縦走チャレンジとなった。(注: 移行、紀見峠組の記録)  
駐車場から住宅地を抜けて歩くこと1時間、紀見峠、いよいよ出発である。幸いにも雨は降らず雨具なしで進む。山に入っても舗装された遊歩道、登りは階段。丸木を組んだ階段なのだが、とにかく登りという登りに階段が設置されていてこの先ずっと悩まされることになる。道中その名を刻んだ石碑が要所に立ち、手入れも行き届いていて不安は全くない。全ルート最高地点で1000mほどの低山縦走路ということもあり、過去の記録を見ても適期は秋から春まで。あくまで雨予報・日照り無しというCLの読み通り、思ったほどの暑さではないものの、階段に差し掛かるとなぜか風が止み汗が噴き出すのであった。修験道の道らしく途中ゆかりの堂やら杉やらを経て順調に進む。初日のゴール近く、久留野峠すぎて岸上さんが追い付いた! さすがの健脚。この日はバンガロー泊、テントもなく身軽に臨めた。夕食は西川さんの上手な炊飯とレトルトカレー、居心地の良いバンガローでゆっくり休めた。  
2日目。朝のうち雨。歩いてほどなく金剛山を極め、本日のメインとなる大和葛城山へ大きく下って登り返す。山頂にはロープウェイも通じていて文明に触れる。先に進み平石峠で道路を横切って入山口を見失ったがひどい笹藪の中にそれはあった。階段のアップダウンに耐えて進む。ゴールが近づくと岸上さんとここまで調子よく進んできた森下さんは本当のゴール「屯鶴峯」へ。フルでなくても約38km、2日計17時間行動。充実した山行だった。

確認  
(リーダ-)

作成  
(報告者)  
森  
23.07.13  
(朋)

ダイヤモンドトレール(略称: ダイトレ)は、1970年に大阪府によって整備された大阪・奈良・和歌山県境の金剛・葛城山系の稜線を縦走する自然歩道である。大阪環状自然歩道の一部を構成している。ダイヤモンドトレールという名称は金剛石(ダイヤモンド)になちなみ、1972年に名付けられた。屯鶴峯(どんづるぼう)に始まり、二上山、岩橋山、大和葛城山、金剛山、岩湧山、槇尾山を結ぶ全長約45kmに及ぶコースである。六甲縦走、比良縦走とならぶ関西地方を代表する縦走路となっている。健脚者の中には一日で走り抜ける者もあるが、交通の便が比較的良好なため通常はコースを分割することが多い。